

数の横暴 許せぬ 声上げ続ける



特定秘密保護法案の廃案を求める集會に集まり、耳を傾ける人々＝富山市のJR富山駅前

秘密保護法案

集會では、「国民の目と耳、口をよぎ、秘密保護法案は廃案」と書かれた横断幕をバックに、呼びかけ人らが登壇した。ジャーナリストの向井節之さん(70)は「政府は強行採決という許せない暴挙に

参院委強行可決
1/6朝日
「暴挙」「許せない」
JR富山駅前 集會に300人

特定秘密保護法案が参院特別委員会で強行採決され、与党の賛成多数で可決された5日、富山市のJR富山駅前では廃案を求める集會に約300人(主催者発表)が参加した。発言者や参加者らは「強行採決に断固抗議すること、与党の国会運営に憤った。

各構成員の協力
組織の集い
各構成員の協力
組織の集い

出た。法案は、市民の知る権利を奪う、現代における治安維持法だ。米騒動は富山から広がった。これは民主主義の原点であり、歴史のターニングポイントだった。法案を富山から粉砕しよう」と訴えた。

「富山大空襲を語り継ぐ会」の田中悌夫・代表幹事(82)は「何が秘密なのか、訳のわからない法案だ。日本の言論、政府への批判、反対意見が封殺され、太平洋戦争以前の日本に戻ってしまう。日本の自衛隊がどこに行っても、どれだけ死んだのかも分からなくなるかもしれない」と危惧した。

集會後、参加者らはシュプレヒコールを上げながら、県庁や県民会館周辺をデモ行進した。

法案成立が現実味を帯びる中、参加者も危機感を口にした。富山市の龜谷達夫さん(80)は「秘密は隠蔽なく広がっていく。政府は傲慢で、もっと国民の声を聞くべきだ。選挙ではからず、こんなに短期間でまとめるなんて許せない」と話した。

「なせ今、新しい法律を作らないといけないのか。全く理解できない」と疑問を呈した。医療従事者として「何が秘密かもわからない」「特定秘密」の名の下に、医療従事者が患者の病歴などを表に出せない情報や強制的に出せと命じられることなど心配する。

廃案求め
300人デモ
富山
1/6北日本

特定秘密保護法案の成立に反対する緊急集會が5日、富山市のCICC前広場で開かれ、市民グループや労働団体など約300人が激しいシュプレヒコールを上げた。

魚津市の歯科医師、小熊清史さん(85)は、国家公務員法や自衛隊法で既に守秘義務違反の規定がある中、「なせ今、新しい法律を作らないといけないのか。全く理解できない」と疑問を呈した。医療従事者として「何が秘密かもわからない」「特定秘密」の名の下に、医療従事者が患者の病歴などを表に出せない情報や強制的に出せと命じられることなど心配する。

県内の大学教授や弁護士、ジャーナリストらが呼び掛け人となって実施。集會は法案が参院国家安全保障特別委員

会で強行採決された直後に始まり、ジャーナリストの向井節之さんや富山大空襲を語り継ぐ会の田中悌夫代表幹事、

士井由三元小杉町長らが「採決は許すことのできない与党の暴挙。最後の最後まで廃案をあきらめない」と呼び掛け続けた。

集會後は市中心部をデモ行進し、プラカードなどを掲げながら「国民の知る権利を守れ」「現代の治安維持法だ」との声を上げた。

士井由三元小杉町長らが「採決は許すことのできない与党の暴挙。最後の最後まで廃案をあきらめない」と呼び掛け続けた。

会では、「国民の目と耳、口をよぎ、秘密保護法案は廃案」と書かれた横断幕をバックに、呼びかけ人らが登壇した。ジャーナリストの向井節之さん(70)は「政府は強行採決という許せない暴挙に断固抗議すること、与党の国会運営に憤った。

特定秘密保護法案に反対し、シュプレヒコールを上げる参加者＝富山市のCICC前広場



明日の「もんじゆ祭炉集會」にも動員お願いします！
女性青年2才
学校もあります